



瀧本 孝一 議員

一問一答方式

小規模でも強い農家の育成を

問……………

農業新聞で報道された、韓国の規模は小さくても経営感覚に優れ、それぞれ強みを持つ農家の育成を進めている「強小農プロジェクト」政策の認識は。

答(市長)……………

新聞は見えていないが、関心は持っている。かつて戸別補償制度の中で、小規模農家を

守ろうという動きもあった。典型的な中山間地である遠野のようなところでこそ、小さくてもキラリと光る取り組みが必要ではないかと考える。

本市はアスト事業で様々な農家支援をしているが、今後さらなる小規模農家へ独自の支援策等を講ずる可能性については。

問……………

個人農業者については、高齢者でも作業が容易なピーマン、アスパラガス、ニラなどの軽量作物を推奨し、所得の確保を推進してきた。今後においても、小規模と大規模の棲み分けを明確にしながら、地域農業の維持・発展に向け取り組んでいく。

答(市長)……………

地方の広大な面積を活用しながら生み出された電気は、全部都市の方へ行く構図となっている。

地方には自然・資源、水を守る山、命の産業である農業がある中で、再生可能エネルギー事業は、時代の流れが必要ではあるが調和が大切であり、遠野の景観を守るためもう一步踏み込むことも必要と考えている。



景観保全は小規模農家の汗と地域の連携から…

大規模太陽光発電事業と景観保全の調和とは

問……………

景観資源の保全と調和した再生可能エネルギー事業の推進で、「調和」の意味する範囲や定義については。

答(市長)……………

適切な指導に従った場合の計画でも、景観保全の総合的な判断から不認可となる可能性はあるのか。

問……………

対象事業の届出であり、許認可制ではない。届出に対し、景観資源の保全のため行政指導を行う。法的整備が不十分のため資源エネルギー庁は、適切な事業実施のため遵守事項を定めた「事業計画策定ガイドライン」を平成29年に定めている。

答(市長)……………

市が定める条例は、



遠野の自然景観と調和することが大前提の再生可能エネルギー事業のあり方は…



新田 勝見 議員

一括質問方式

乗用馬生産の課題は

問……………

本州唯一の乗用馬市場が10月に行われたが、非常に厳しい結果に思えた。昨年と比較しても売り上げは1115万円と4割減。乗用馬は、趣味的な要素もあり、馬事文化としてさまざまなイベントに参加し、最近ではホースセラピーとしても活用されている。ぜひ遠野市の重要な産業として成り立つように望

むが市長の考えは。

答(市長)……………

今年度は、ホームページにおいて直近の動画配信を行い、PR活動を積極的に行ったが、予想に反して2歳馬の売却が伸び悩んだのは、今年が初めてのことである。購買者のニーズが3、4歳馬に移行しているとの意見をいただいた。今後、生産者と協力

し購買者へのPR活動を強めながら、平成31年度には良い結果を残せるよう努めていく。

問……………

現在1歳馬から2歳馬の期間を、馬の里に預けた場合、月2万円の市の助成があるが、生産者には自己負担もあり、それまでの経費が多くて大変であると聞いている。2歳馬3歳馬で販売する場合、体力とリスクが心配である。生産者も高齢化している。担い手の育成も含め、今後、本州唯一の乗用馬市場を継続するための活性化策は。

また、馬の里の職員が不足していると聞いているが、馬事振興をすすめていくうえで、馬の里は重要な役割を持っている。特別な技術が必要と思うが養成して不足のないように臨んでほしいが。

答(市長)……………

中央馬事団体から「馬の品質は悪くない」「市場での馬の見せ方もよい」と評価していただいているので、期待にこたえる責任もある。馬の里の職員不足

も認識している。このことから、現在策定中である、第3次馬事振興ビジョンの中で生産者、畜産振興公社と一緒にあって、その具体的な取り組みについて検討を進めている。

馬の里の体制強化を



本州唯一の乗用馬市場の様子